

TOEICとセンター試験リスニングの誤答分析と指導

須 部 宗 生 土 田 玲 子

I はじめに

近年の英語教育を取り巻く環境の変化は著しい。文部科学省は、平成11年に学習指導要領を改訂し、外国語教育における「実践的コミュニケーション能力の育成」を重点目標として掲げた。また早期英語教育の必要性を訴え、一部の小学校において「国際理解教育」の一環として英会話の授業を開始し、平成19年度からは全国的に導入することを発表した。平成15年3月には、「英語が使える日本人の育成のための行動計画」が策定され、中学校、高等学校卒業時には英語で日常の基本的なコミュニケーションが可能になり、大学卒業時には仕事において英語が使用できるようになる、という目標を掲げ各教育現場での英語の授業の具体的な改善、英語教育の質的向上、入学者選抜方法の見直しを打ち出した。そしてその一貫として、平成18年には大学入試センター試験にリスニングテストが導入された。しかしながら以上のような英語教育における急激な変化に対して実際の教育現場は十分に対応できているかどうかは疑問である。各々の教育現場における英語教師は一種の危機感をもって英語教育の改革に努力をされている。しかし最大の問題は、英語教育における、小、中、高、大と続く、一貫した組織的な教育の流れと連携が欠落していることに他ならない。本小論は、以上の認識に基づき、それぞれ高校と大学の英語教育現場に身を置く両著者が所属する「異文化情報ネクサス研究会」での共同研究をまとめたものである。本論において、各々の英語授業時に行った実験調査に基づき、高校生及び大学生のリスニングの練習問題の誤答を、リスニング能力を構成する要素とプロセスの視点から分析し高校生と大学

生のための有効なリスニング指導法を模索した。

II リスニング力を構成する要素とリスニングプロセス

II-1 リスニング力を構成する要素

次章にて誤答分析をするにあたって、ここではリスニング力を構成する主要な要素に触れておきたい。Buck¹⁾によれば、リスニング力は大きく4つに分けられる。

第1の要素は、聞き手へのインプット、つまり音を聞き取る力で、assimilation (同化), elision (省略), intrusion (割り込み)などの音韻変化の知識、ストレスやイントネーションと意味の関連付け、アクセント(訛り、方言)の聞き取り、言葉をリアルタイムで処理する力などが含まれる。

第2の要素は、言語知識を用いて意味の理解につなげる力である。この言語知識には、語彙、文法、意味論、談話などの知識が含まれる。これらの言語知識をもとに、言葉を認知して意味を理解し、個々の言葉の意味をつなげて発話全体の意味をとらえ、さらに文と文とのつながり、すなわち接続詞や照応表現といった結束性を理解する能力である。さらにBuckは、談話に関連して、講義などの書き言葉に近い文体や対話などの話し言葉といったテキスト形式も理解度に影響する重要な要素であると指摘している。

第3の要素は、背景知識の使用能力である。聞き手は内容理解において、話題に関する一般的知識、聞き手が以前経験したことやコミュニケーションの場における視覚的情報など、

1) Buck, G. 2001. *Assessing Listening*. Cambridge University Press.

非言語の要素を使って理解しようとする。したがって以上の要素を聞き手が十分持っているか否かが理解に大きな影響を与える。これは一般にスキーマ理論と言われるが、内容理解はテキストとその人の背景知識の相互作用によっておこるため、話題についての知識があると言語知識が多少不足していても大局的な理解は可能となり、また逆に背景知識がない場合、いくら聞いてもよく分からないということが起こる。このことから、スキーマの活性化とその利用により、理解力の向上が望めると考えられる。

第4の要素は、文脈（コンテキスト）の理解力である。これは語用論や社会言語学研究に関わる要素である。言葉は文脈の中で発せられるが、あらゆる文脈はコミュニケーションが起こる社会的な状況に結びついていて、その社会的な文脈でメッセージが変容するのである。したがって聞き手は様々な文脈の中で話者の意図を解釈する必要がある。また文脈は話者と聞き手の社会的関係にも影響を受け、このようなコンテキストの理解力も聞き取りの上で重要とされる。コンテキストの理解力は言葉を単なる文字の集まりとして捉えるのではなく、言葉が運ぶ話者の真意を理解する、例えば相手は怒っているのか、嬉しいのか、何かを依頼しているのか、などを把握する力で円滑なコミュニケーションにおいては不可欠のものである。

II-2 リスニングプロセス

以上見てきたリスニング力を構成する要素は、大きくボトムアップ・プロセスとトップダウン・プロセスの2つが関わって言語処理がされ、理解に至ると考えられている。ボトムアップ・プロセスとは、言語的に小さな単位（音韻、単語など）から順により大きな単位（節、文、文章など）へ理解を積み重ねていく過程をさし、トップダウン・プロセスとは、聞き手の一般的知識である、より大きな単位の言語処理が細部の言語処理を助けるという過程である²⁾。

どちらのプロセスがよりリスニング力に優位的であるかは議論を醸すところであるが³⁾、

この点についてBuck⁴⁾は、聞き手は言語的要素、非言語的要素を問わず手がかりになるあらゆる要素を使って理解をしようすると述べ、両方のプロセスが相互に作用していると述べている。すなわち、リスニング力は単に音の認知力を高めたりや語彙や文法などの言葉の知識を増やすことだけでなく、背景知識といった自身の知識全般を増やすことによって養われ、それらを総動員させる総合力であると捉えられる。

トップダウン・プロセスとボトムアップ・プロセスは、聞き手のリスニング力によっても左右されるようである。O'Malley et al⁵⁾は、被験者がテスト中に考えたことをテスト後に尋ねる回帰的インタビューの形式で、上位者と下位者のリスニングのストラタジーを調査した結果、上位者はトップダウンを多用し、理解を妨げる要因が生じた時にのみボトムアップに転じる傾向があるのに対し、下位者はボトムアップに頼る傾向があると報告している。上位者は、通常、文単位や意味のかたまりなど、大きな単位で意味をとらえ、背景知識を最大限に使い、たとえ馴染みの薄い話題や分からない単語に遭遇してもあきらめず理解しようとする積極的な聞き取りの態度が見られたのである。それに対し下位者は、1語1語を聞き取ろうとするため、文の意味がつかめなかったり、分からない単語や知らない話題の出現で聞くことをあきらめてしまったりするなどの傾向があった。このように、聞き手のレベルによっても内容理解へのプロセスは異なると考えられる。

第Ⅲ章及び第Ⅳ章ではテストの結果に基づき、特に誤答が導かれる要因が本章で見てきたどの要素と密接に関わっているかを検証し、誤答が導かれる要因を分析してみたい。

2) 武井照江『英語リスニング論』河源社 2002. P34.

3) 武井照江『英語リスニング論』河源社 2002. P34.

4) Buck, G. 2001. *Assessing Listening*. Cambridge University Press. P. 3

5) O'Malley, J., Chamot, A. and Kupper, L. 1989. Listening comprehension strategies in second language acquisition. *Applied Linguistics*, 10, pp. 418-437.

Ⅲ 実験調査1と分析（高校生の場合）

実験日時 2006年6月29日（木）

第1学期期末試験時 テスト時間30分

被験者

静岡県立富士高校 2年生 81名

（男48名 女28名）

実験調査資料

2006センター対策英語リスニング（ベネッセコーポレーション）

実験調査問題・結果・分析

試験全体の平均正答率は7割とかなり高い結果となったが、誤答分析の目的をより鮮明化するために、特に正答率が低かった問題、すなわち正答率約50%以下の問題だけを合計6題扱うこととした。問題、音声スクリプト、選択肢及び解答結果を示し、正解の選択肢は四角で囲み、それぞれの選択肢には被験者の解答人数及びその割合をパーセントで（ ）内に示し、最後にリスニング能力の構成要素とプロセスからみた分析を示した。

対話応答型補充問題

問題1

音声スクリプト

Woman: I wonder if you could give me a ride.

Man: Of course. Where do you want to go?

Woman: I need to get to the hospital.

選択肢・解答結果

①Turn left there, and go along that street. (38名 46.1%)

②Have a nice weekend! (0名 0%)

③Cycling is fun, isn't it?

(2名 2.5%)

④No problem. Please get in.

(41名 50.6%)

この会話では女性が「車に乗せていって欲しいのですが」と男性に依頼し、男性がそれに対して「いいですよ、どちらへ行きたいですか」と答え、女性が行き先を言うという流れで、それに対する男性の応答は選択肢4「いいですよ、乗ってください」となる。し

かし、選択肢1「そこを左に曲がってその道に沿って行ってください」を答えた生徒が38名で全被験者（81名）の約半数を占め正答率が低い結果となった。選択肢1は、道案内で使われる典型的な文であり、対話文の最後の文である"I need to get to the hospital."とうまくつながることから、被験者は対話の最後の文のみを聞いて、後に続く発話を選択したものと思われる。

この問題で正答を得るには、最初の女性のI wonder if ~の文が「車に乗せていって欲しい」という依頼の文であり、女性が男性に何かをお願いしているというコンテキストを理解する必要がある。このコンテキストを把握していなかったためにI need to get to the hospital.「病院に行く必要がある」という1文を聞いて道案内の会話と誤解してしまったのである。これは、Buck による、第4の要素であるコンテキストの理解力不足が誤答の原因であると考えられる。

問題2

音声スクリプト

A: My car wouldn't start this morning.

B: You should check the battery.

選択肢・解答結果

①I don't want it. (2名 2.5%)

②I formed a battery with Akio.

(23名 28.3%)

③I don't think there is anything wrong with the brakes. (46名 56.8%)

④It might be dead. (10名 12.3%)

この会話では車についてAが自分の車が動かないと言うのに対しBがバッテリーをチェックしたらと提案する。その応答は選択肢4の「バッテリーがあがっているかもしれない」となる。これは正答率が最も低かった問であるが、その原因として2点を考察した。第1に、正解の選択肢4「バッテリーがあがっているかもしれない」について、batteryがdeadであるという語と語の結びつき（コロケーション）の知識が不足していたというこ

とである。高校生のレベルでは、deadという単語は、人などの生物に対して使われる言葉としての認識があり、「物が機能しない」という多義的な意味はおそらく捉えていないだろう。結果として、この選択肢の意味を理解できず、選択できなかったと思われる。語彙、コロケーションの知識不足より正答が選ばなかったと捉えたと、Buckによる、第2の要素である言語知識の不足が誤答の原因と考えられる。

第2に、誤答である選択肢2「アキオとバッテリーを組んだ」(23名、28.3%)と選択肢3「ブレーキに調子が悪いところはないと思う」(46名、56.8%)を選択した生徒が多数いることから考えると、聞こえた単語もしくは

はそれに近いものが選択肢に含まれているものを選ぶ傾向が見られる。選択肢2を答えた者については、batteryが聞こえたために選択肢し、選択肢3を答えた者については、音的に近いbatteryとbrakeを混同したのではないかとと思われる。聞こえた単語に頼るだけでメッセージを把握していないことは、やはり第2の要素に関わるようであるが、その中でも特に言語知識を意味理解につなげる力が不足していたと考えられる。

対話ビジュアル型図表完成問題

問題3

問題・選択肢

CD
47

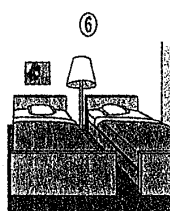
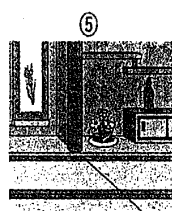
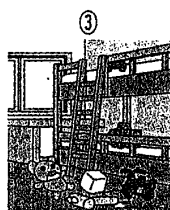
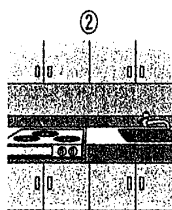
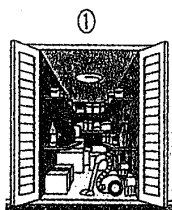
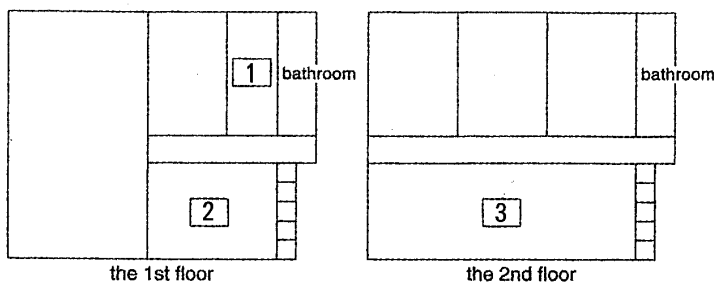
第3問B ここでは長めの対話を一つ聞いて、問17から問19までの三つの問いに答えなさい。この対話では、女性が家を買うために、住宅業者から家の間取りの説明を受けています。17 ~ 19 の部屋として最も適当なものを、六つの選択肢 (①~⑥) のうちから一つずつ選びなさい。

問17 1

問18 2

問19 3

CD
48



解答結果

- ① 3名 3.7% ② 22名 27.1%
 ③ 3名 3.7% ④ 14名 17.3%
 ⑤ 37名 45.7% ⑥ 2名 2.4%

音声スクリプト

Man: The first floor has a living room, a kitchen and a Japanese-style room for guests. There're four bedrooms on the second floor. The biggest one is for you and your husband.

Woman: How many bathrooms are there?

Man: Two. There is one on the second floor. The other is on the first floor, next to the storage space.

Woman: A storage space! Is it a big one?

Man: Yes. It's quite a big one. It's about 7.4 square feet.

Woman: That sounds good. By the way, is the guest room next to the kitchen?

Man: It's in front of the kitchen across the hall. It's the same size of both the kitchen and the storage space put together.

Woman: OK. Thanks.

この問題は対話を聞き、問題になっている3つの部屋の位置を選択肢のイラストから選択する問題である。その中で、ここでは最も正答率が低かった2（問18）のみを取り上げる。2は日本の畳の客間（選択肢5）が正解である。正答率が低かった原因として、3点を考察した。

第1に、同じ事物に関する言い換え情報の理解が不足していたという点である。つまり a Japanese-style room for guest 「お客様のための日本式の部屋」と the guest room 「ゲストルーム（客間）」を同じ情報として理解できなかったと考えられる。英語では重複をさけるため、同じ内容のことを異なる形で表現することが多く、情報を個々に認知しては話がつながらなくなることがある。個々の言語情報を関連づけるには、言葉を意味理解につなげる能力が必要で、これはBuckに

よる、第2の要素の欠如が誤答の原因と考えられる。

第2に、誤答として最も多かった選択肢2の台所（22名、27%）より、誤答者は実際に聞こえた単語に惑わされたのではないだろうか。女性の「ゲストルームは台所の横ですか」という質問に対して男性が「廊下をはさんで台所の前で、台所と物置の両方を合わせた広さです」と答えているが、被験者はここで説明されている位置関係を理解できず、kitchenが聞こえたためにとりあえず選んだのではないかと思われる。誤答者が、単語を拾うだけで、文の意味を捉えていないことは、Buckによれば、第2の要素に関わる。

第3に、次に誤答として多かった選択肢4の居間（14名、17.3%）から、誤答者が客間を居間と結びつけてしまったのではないかと考えられる。訪問客は特別なことがない限り、居間に通すことが多いはずである。従って被験者にはお客様は居間へというスキーマが確立している故に、居間という誤答が招かれたと考えられる。さらに、マンション住まいや洋風の住宅では和室がないことも多いという現代の住宅事情などから、お客を和室へ通すというスキーマ自体が希薄であることも原因していると考えられる。スキーマの影響については、Buckは第3の要素であげているが、この問題の場合は、スキーマが理解を助長するのではなく、逆に誤解につながったという例としてあげられる。スキーマによる誤解についてLong (1990)⁶⁾の研究は背景知識が誤解の原因になることもあるという結果を報告しており、背景知識は必ずしも理解を促進するわけではないということも留意しておきたい。このことは言語自体を無視して背景知識から大雑把にトップダウン・プロセスによって細部も理解してしまおうとしており、ここ

6) Long(1990)は、スキーマの利用を促すために最初に1848年のカリフォルニアの「ゴールドラッシュ」についての質問を与え、その後でエクアドルの「ゴールドラッシュ」についてのテキストを被験者に聞かせた。その結果カリフォルニアのゴールドラッシュの知識が妨げとなってエクアドルについてのテキストが正確に聞き取れなかったと報告している。

で言語の細かい部分の積み上げで理解するボトムアップ・プロセスの重要性が再認識される。

短文型状況把握

問題 4

音声スクリプト

Bigo Department Store is pleased to announce its year-end clearance sale! Lots and lots of bargains for everyone. Busy housewives can do all their winter shopping under one roof - and for the first 100 customers only, half-price on selected items - that's right, fifty percent off! Plus a free gift for anyone spending more than one hundred dollars. Come to Bigo today!

問題・選択肢・解答結果

Who is the fifty-percent discount for?

①For the busy housewives.

(5名 6.1%)

②For the first one hundred customers.

(36名、44.4%)

③For anyone spending more than one hundred dollars. (35名 43.2%)

④For everyone. (5名 6.1%)

これはデパートの年末セールの宣伝アナウンスで、「先着100名様には特定の商品に限り半額」「100ドル以上お買い上げのお客様にはプレゼントを贈呈」などと話されている。この問題の正答率が低かった原因として2点の原因が考えられる。第1に、テキスト形式と音声の特徴が正答率の低さの原因ではないかという点である。このような宣伝アナウンスは、独特のリズムや抑揚のあるコマーシャル特有の語り口調で、被験者にとっては聞きなれないテキストであったと思われる。またコマーシャルは限られた時間の中で放送されるので、繰り返しや間はなく、対話などに比べて情報は凝縮されている。したがって、被験者は聞きなれない音調で耳が聞く態勢になら

なかった上に、凝縮された情報で情報処理が間に合わなかったと考えられる。これは、Buckによる第1の要素である言葉をリアルタイムで処理する力が欠けていることが考えられるが、それだけでなく、第2の要素の中であげられたテキスト形式と内容理解の関係にも通じる。テキスト形式と内容理解についてはShohamy and Inbar⁷⁾の実験によれば、書き言葉に近いニュース、話し言葉である対話、2つの中間として捉えられる講義の3種類のテキストで同じ内容の情報を被験者に与えたところ、ニュースでの内容理解が最も難しく、講義、対話の順で難易度は下がるという結果がでた。ニュースは情報の凝縮性が高く、繰り返しや重複もなく、文章構造も複雑であるために内容理解が困難であったとされている。この宣伝のアナウンスのテキストも同様の性質を持っていると判断できることから、テキスト形式が内容理解の低さ、正答率の低さに関係したと考察できる。

第2に、誤答として最も多かった選択肢3「100ドル以上購入した人すべてのため」に注目すると、選択肢3の内容は、答えにあたる部分の直後に述べられており、被験者は後半の情報に引きずられたと考えられる。これはBuckによれば第1の要素に関係しており、情報をリアルタイムで処理できなかったことが原因と考えられる。

またさらに、よく日本にある「先着100名様に無料プレゼント差し上げます」とは異なる「先着100名様に限り半額にします」が誤解を誘ったのかもしれない。これはLongも指摘していることだが、Buckの言う第3の要素である社会的背景知識が日米での社会習慣の相違により、逆に働いた例とも考えられる。

⁷⁾ Shohamy, E. and Inbar, O. 1991. "Validation of listening comprehension tests: the effect of text and questions type." *Language Testing*, 8, 1, pp.23-40.

講義型内容把握問題

問題 5・6

音声スクリプト

Do you know that people who smoke heavily are expected to live fewer years than those who don't smoke? Do you know that people who smoke die from cancer of the lungs more often than those who don't smoke?

There is not even a single good reason to smoke!

Cigarette smoking has been proved to be the main cause of lung cancer. Scientists now know that heavy smokers are likely to have a more serious form of cancer than light smokers.

Cigarette smoking has also been shown to cause damage to the heart and blood vessels. The smoke from a cigarette has a chemical called nicotine that makes the heart work harder, and if the heart beats faster than normal, the blood pressure goes up. Thus the chances of heart attacks increase in heavy smokers.

Tobacco in any form can cause health problems. People who chew tobacco can get cancer of the lip or tongue. Smoking cigars and pipes is also dangerous.

You may have wondered why you don't see commercials on television for tobacco.

Television doesn't advertise cigarettes because doctors and scientists have shown that smoking is very dangerous. Even the governments of some countries actively encourage their citizens either not to smoke or quit smoking.

問題・選択肢・解答結果

5

According to the lectures, why does the smoke from a cigarette increase the chance of heart attacks?

①Because it raises the blood pressure.

(33名 40.7%)

②Because it damages the lungs.

(28名 34.6%)

③Because it can digest nicotine.

(18名 22.2%)

④Because it makes people feel nervous.

(2名 2.5%)

6

According to the lectures, which statement is true?

①Smoking cigars is not dangerous for our health. (6名 7.4%)

②Not all tobacco causes health problems. (2名 2.5%)

③Tobacco isn't advertised on television. (39名 46.9%)

④Chewing tobacco reduces the risk of getting cancer. (34名 42.0%)

これは、200語程度の講義形式で、たばこが健康に及ぼす害についての講義である。たばこの害については高校生なら喫煙者が肺がんになりやすいなどの一般的な知識は持っていたとしても、医学的用語や医学的な専門知識はおそらく持ち合わせてはいないだろう。本文では心臓発作に至る過程やたばこが宣伝広告されていないことなどに話が発展し、一般常識だけではカバーできない部分があるため、話の流れをつかんで問題に関わるポイントを丁寧に聞き取る力が問われる。

5の質問は「講義によるとたばこの煙によって何故心臓発作になる危険性が増えるか」で、答えは選択肢1「血圧をあげるから」である。講義の中では専門的な語彙(blood pressure, blood vessels, chemical, nicotineなど)が多用され、科学的で複雑な因果関係やメカニズムについての説明があり、被験者はほとんど内容理解ができなかったのではないかと考えられる。専門的な語彙は、被験者の語彙力を考えると、未知語もしくは聞いてもすぐに意味とつながらない語であると判断される。これらの語群が複雑に絡み合って血圧の上昇や心臓発作についての高度な内容について説

明がされるため、何かがどう関係しているのかをほとんど聞き取れなかったのではないかとと思われる。このことは、Buckによる、第2の要素と第3の要素に関わる。語彙が理解できなければ意味理解には到底つながらず、医学的な背景知識も欠如しているため、正しい解答を導き出すのはかなり困難であったと判断される。

また5の誤答として最も多かった選択肢2「肺にダメージを与えるから」(28名、34.6%)を見ると、質問がたばこ心臓発作の関係について訊ねているにも関わらず、一般的知識から、たばこの害=肺への影響、と結びつけ短絡的に選択したと思われる。このことは前述したLong⁸⁾のスキーマによる誤解に通じ、スキーマに引きずられたことによる誤答と考えられる。また誤答として次に多かった選択肢3「ニコチンを消化することができるから」(18名、22.2%) 関しては、質問が肺がんについてのものではないことは把握していたようである。しかし、選択肢3は全く意味を成さないことから被験者はおそらく選択肢の意味を理解できていない状況にありながらも、Nicotineという単語が聞き取れて、短絡的にそれが含まれる選択肢を選んだものと考えられる。これはkeywordの知識不足によるもので、Buckによれば特に第2の要素の力が欠如していたと考えられる。

6は、本文に合うものを選ぶ問題であり、正解は「たばこはテレビ広告されていない」であるが、選択肢4「噛みたばこはがんにかかる危険性を減らす」を選んだ被験者が多かった(34人、42.0%)。たばこをかむ(chewing tobacco)ことの害については、本文では「唇や舌のがんを引き起こすこともある」と述べられており、選択肢4と本文はおおよそ反対の意味になっている。したがって、本文を聞き取れて選択肢の意味が分かっていたら4が不適切なのはすぐに判断できるはずである。それにも関わらず、選択肢4を選択した被験者が多いのは、本文の聞き取りに問題があっ

たか、または選択肢の解釈を間違えたかが原因として考えられる。選択肢4にはreduceという単語が使われており、被験者はこの単語の意味を認識できなかった可能性も考えられる。またChewing tobaccoというフレーズが聞こえた時点で選択肢の意味が分からなくても選んでしまったということも大いに考えられる。このことは5同様、Buckの第2の要素に関わり、語彙力不足から意味を捉えられず聞き取れたフレーズに引きずられたと考えられる。

また正解の選択肢3「テレビでたばこは宣伝されない」を選ばなかった理由としては、一般的知識が理解を妨げたという可能性も考えた。イギリスをはじめ、アメリカやノルウェーなどではたばこのテレビ広告は禁止されているが、日本では1998年4月に「電波媒体におけるたばこ銘柄広告自粛」⁹⁾となっているのに留まり、完全に放映禁止にはなっていない。したがって、被験者の中にはたばこのテレビ広告を見たことがある者もいて正解の選択肢を選ばなかったことも考えられる。その場合、背景知識が誤答の原因になったと言える。

またテキスト形式も言及すべき項目である。この問題のテキスト形式はShohamy and Inbarの研究におけるニュースの形態に最も近く、凝縮された情報提示と複雑な文体から内容理解は困難になったと思われる。このことに加え、上述した語彙力と背景知識の不足が重なっているため、たとえ正答が選べても、被験者がどの程度本当に理解できているのかは疑問である。このような問題に対処する力をつけるには、音の認識力の向上、語彙力増強、フレーズや文レベルでの細かい聞き取り訓練に加え、背景知識も増やしていく必要がある。つまり、ボトムアップとトップダウンの両方のプロセスをうまく利用する総合力を強化する必要がある。

8) Long, R. L. 1990. "What you don't know can't help you." *Studies in Second Language Acquisition*, 12, pp.65-80.

9) 厚生労働省ホームページ
<http://www.mhlw.go.jp/>

IV 実験調査2と分析(大学生の場合)

ここでは以下の要領で大学生を対象として実験調査を行った。

実験日時

2006年7月7日(金) 3時限、英語表現論

授業時

被験者

静岡産業大学情報学部英語表現論受講学生
20名

実験調査資料

TOEIC公式ガイド&問題集TOEICミニ・
テスト問題Part III

実験調査問題・解答結果・分析

各問題には音声スクリプトを加え、正解の
選択肢は四角で囲み、それぞれの選択肢には
被験者の解答人数及びその割合をパーセント
で()内に示し、誤答分析を試みた。

No.1

音声スクリプト

(Woman) Have you heard? Mr.Olmos
is going to Africa.

(Man) Is that right? I guess he'll
be gone for some time.

(Woman) Not too long really, just
for fourteen days.

問題・選択肢・解答結果

How long will Mr.Olmos be away?

- (A) Four days. (2名 10%)
(B) One week. (1名 5%)
(C) Two weeks. (14名 70%)
(D) Over one month (3名 15%)

被験者は "How long…?" で「どの位の
期間Mr.Olmosはでかけるのか」という質問
の趣旨は理解したようだが、意外に正答率が
低く70%に留まった。誤答として、four days
はfourteen daysの早とちりと思われ、over
one monthと答えた者は、fourteenをforty
と聞き取り、40日間だから、「一ヶ月以上」
と解釈したのだろう。リスニング問題におい
てはこのような14と40といった、間違いやす
い数字の聞き取りが試されることが多く、微
妙な音の違いを聞き取れなければ正確な情報

はつかめなくなる。これはBuckによれば第
1の要素に含まれるが、個々の音の正確な聞
き取り能力の欠如は誤答につながる例であろ
う。

しかし、一方で話し手や会話の状況によっ
て個々の発音が変わることもあるため、単な
る音の聞き取り能力だけでは不十分であり、
加えて文脈を理解する力が必要である。この
問題では、女性がI guess he'll be gone for
some time.「かなり長く出かけるのでしょ
う」と言う男性に対し、Not too long really,
just for … days「そんなに長くないです
よ、ほんの・・・」と反応していることから文
脈よりfortyではないと感じ取れるはずであ
る。ここで答えを予測できないということは、
Buckによれば第3の要素、コンテキストの
理解力が欠けていると捉えることができる。

No.2

音声スクリプト

(Woman) Which phone can I use to
make an international call?

(Man) You can dial direct from
any of the office phones.

(Woman) Great, then I don't need
an operator or a special
line.

問題・選択肢・解答結果

What does the woman want to do?

- (A) Get directions (2名 10%)
(B) Get a special line. (4名 20%)
(C) Make an international call.
(13名 65%)
(D) Change the office phones.
(1名 5%)

「国際電話をかけるにはどの電話がいいの
か」の質問はほとんどの被験者が理解したは
ずである。従って「女性のしたいことは何か」
というかなり直線的な質問に対し、「国際通
話をする」にもっと多くの者が解答するはず
だと予想した。しかしこの予想に反して、get
a special lineに引きずられた者が4人もい
た。これは比較的よくあることだが、I don't

need…という否定の部分飛ばしてa special lineに短絡的に結びついてしまったものと思われる。これは英語とは語順がことなり「・・・は必要ではない」と否定の形が文尾に来る日本語に慣れているための日本人が陥り易い誤解と思われる。don'tのような否定語は強調されない限りはっきり発音されないで、聞き落とす可能性が高い。don'tを瞬時に聞き取るためには、短縮形などの音韻変化を捉えることと音をリアルタイムで処理する力が必要である。これはBuckによれば第1の要素に関わり、これらの力が不足していることが誤答の一因であると考えられる。またspecial lineに引きずられたことは聞き取れたフレーズに流されたことを示しており、男性の「オフィスのどの電話からでもいいですよ」という前文の意味を理解していないことを表している。これはBuckの第2の要素に関わり、文と文のつながりを捉えられていない、また聞き取れた語句を意味につなげる力が欠落していることによると考えられる。

No.3

音声スクリプト

(Man) How much will it cost for me to get from New York to Boston?

(Woman) It depends on whether you travel by car, bus, train, or plane. The best deal I could find for you would probably be on a bus.

(Man) That sounds fine to me. I'll want a ticket for Saturday morning.

問題・選択肢・解答結果

How will the man probably travel?

- (A) By train. (1名 5%)
- (B) By car. (0名 0%)
- (C) By plane. (2名 10%)
- (D) By bus (17名 85%)

How much will it cost to get from A to B? という聞き方は、「運賃がいくらか

るか」という意味だとはほとんどの被験者が理解したようだ。その問いに対して、女性はIt depends on…と、「行き方による」と言っている。その上でThe best deal…と、一番いい行き方が「バス」であると述べているのである。それに対し男性は、土曜の朝のticketが必要だろうと応答している。おそらくこの問題は理解しやすかったのだろう。全問題中正答率は85%と最も高かった。にもかかわらず若干の者がIt depends on…という表現に不慣れなせいか、その後列挙したtrain, car, planeなどの選択肢に惑わされたようだ。また、焦りの気持ちからか、New YorkからBostonへという広大で交通手段として飛行機が多用されるアメリカの国情も頭にちらつきplaneと答えてしまったと想像できる。

しかしリスニングの理解では、Buckの言う第2の要素である結束性に限られた時間内に焦点をあてた理解や、第4の要素である文脈の理解が最優先すべきである。第3の要素である背景知識は与えられた情報を理解する補助的なものであることを忘れてはならない。

No.4

音声スクリプト

(Man 1) We're planning on going to the ball game on Friday.

(Man 2) That sounds like fun. I know the team is doing well, but unfortunately I have plans this Friday.

(Man 1) OK. There will be plenty of other opportunities this season.

問題・選択肢・解答結果

What are they discussing?

- (A) A vacation. (4名 20%)
- (B) An upcoming conference. (2名 10%)
- (C) A sports event. (13名 65%)
- (D) A party. (1名 5%)

「週末にball gameに行くから君も来ない」と誘っている。この誘いに対し、「the

team (ホームチーム) も調子がいいようだし行きたいのはやまやまだがunfortunately (残念だけど) I have plans. (計画がある) と断っている。それに対し、「わかったよ。まだシーズンは長いしまた行けるチャンスもあるからね」と相手を思いやるように答えている。この短い会話のやり取りの中には、社会的な慣習的なマナーと思われるsocial skillがある。このようなTOEICの会話問題は特にこのsocial skillの理解が深いか否かによって理解度が大きく変わってくることがあり得ると考えられる。何かを誘われたなら、例えば本音ではまったく興味がなくても、That sounds like fun…などと反応し、いきなりNoとは答えないのが通例である。とかく英語ではYes, Noをはっきりすること、などと一面的な捉え方をするあまり日本語以上に大切にされるpolitenessを無視する教え方がなされていることも懸念されるのである。これは、Buckの言う社会言語学的な第4の要素に関係している。ある人からある提案や誘いがある場合、それを断るにはそれなりのpolitenessにのっとったスキーマがあるのだ。言葉から会話が行われる状況や会話に表れる人間の関係などを大局的に把握できる力が必要であることを示している。

また用語としてthe ball gameをthe baseball gameと言ったならば理解度は上がっていたのかもしれない。このようなball gameやball parkなどの表現は基本的な語彙として全体の理解にも関係してくるキーワードと言えよう。言語知識の欠如が誤答につながったことでBuckによれば第2の要素の力が不足していたと考えられる。

No.5

音声スクリプト

(Man) Good morning, Ms. Tanaka.
Were you able to fax the
notes from the sales meeting
to our accountant?

(Woman) No, I've been too busy, but
Mr. Mizuno did it for me.

(Man) Just as long as they were

sent out.

問題・選択肢・解答結果

Who faxed the notes?

(A) Ms. Tanaka. (5名 25%)

(B) The sales representative.
(1名 5%)

(C) The accounting supervisor.
(3名 15%)

(D) Mr. Mizuno. (11名 55%)

これは会社のofficeでの場面と考えられる。Ms. Tanakaに男性(おそらく上司)が営業会議のメモを販売代理人にfaxしてくれたかと確認しているのに対し、Ms. Tanakaは忙しすぎてMr. Mizunoに依頼した、と答えている。問題の質問は、「誰がファックスしたか」であるから、当然正答はDのMr. Mizunoである。しかし意外に正答率は低かった。この正答率の低さの原因として考えられるのは、the sales meeting (営業会議) とour accountant (販売代理人) という聞き慣れないビジネス用語に気を取られすぎたことである。このように理解しにくい単語や言い回しに出くわすと理解の流れが遮断され、当初ファックスするはずであった、Ms Tanakaにしがみついてしまったか、聞こえた単語が含まれるB) C) などの解答に走ってしまったものと思われる。このような現象は長文理解でも起こりうるが、時間が限られていて文字情報のように永続性のない音声情報では特に、O'Malley et alの言う英語能力下位者におけるボトムアップ・プロセスに対する依存性に起因すると考えられる。

また大学生はオフィスで働くという経験がほとんどなくスキーマが欠如していること、忙しい場合には誰かに頼むというオフィスの中での自然のやりとり、つまりコンテキストを理解できなかったことが考えられ、この経験不足はBuckによれば第3の要素である背景知識と第4の要素であるコンテキストの理解力が欠けていたことも誤答の原因と考えられる。

No.6

音声スクリプト

(Woman) How long will it take for me to receive my order?

(Man) We usually ship via Global Services, which takes from four to six business days; they also have a two-day express service for an extra ten dollars.

(Woman) OK. I'll go with the express service.

問題・選択肢・解答結果

When will the customer's order arrive?

- (A) In two days. (14名 70%)
- (B) In four days. (4名 20%)
- (C) In eight days. (0名 0%)
- (D) In ten days. (2名 10%)

ここでは、客の女性が「注文した荷物を受け取るまでどのくらいの時間を要するか」と男性に聞いているのに対し、男性は普通便で4～6営業日(business day)かかるが10ドルの追加料金を払えば、速達便が利用でき、この速達便なら2日で済むと答える。これに対し客は速達便を利用することに同意する。問題の質問は、「客の注文したものが届くのどのくらいの時間がかかるか」であり、この答えはA)のIn two daysである。B)のfour daysはこのやりとりの流れがつかみきれないまま、聞こえてきたfour to six daysをたよりにfourに飛びついたのである。またC)については2つの数字を頭の中で勝手に足し10という答えを作り出してしまったものと考えられる。

これは、ただ単にfour, six, twoといった数字やship, express serviceという配達の種類の単語を個々に拾うだけでは不十分で情報に関連付ける力が大切であることを示しており、誤答はBuckによる第2の要素の力が欠落していたことが原因だと思われる。また背景知識として、速達、普通便において配達は通常どのくらいの期間かかるかの知識を瞬時に駆使していれば、おそらくこの問題はさら

に正答率が上がったものと思われる。

またTOEICの問題は全体的にそうであるが、この数理的概念に関する問題は「どのくらいの数ですか」の問いに対し、「～です」のように簡単明解にならないことが特に多くこの問題のようにひとひねりしてあることが多い。「普通は・・・であるが、特別の～もある」との発言に対し、「では～でお願いします」となるのである。故にこの問題でもBuckの言う第2の要素である結束性が関係しているものと思われる。この問題で言えば、Usually ..., they also have ~. OK. I'll go with ~. という展開の理解がまず重要となるはずだ。

No.7

音声スクリプト

(Woman) What time does the plane leave? I'm getting pretty hungry.

(Man) According to the ticket agent, we have to board at two o'clock.

(Woman) Good, that means we still have an hour. Why don't we head up to the restaurant?

問題・選択肢・解答結果

Why is the woman relieved?

- (A) She did not miss her flight. (3名 15%)
- (B) The ticket information is correct. (2名 10%)
- (C) The plane is an hour early. (3名 15%)
- (D) She has time to eat. (12名 60%)

この質問は、Why is the woman relieved? (なぜ女性はほっとしたのか) であるが、このrelievedの意味が理解できなかった学生が半数近くいたようだ。TOEICにはこのようなかつての日本の大学受験問題によく出題された、難解なbig wordはあまり出ないのではあるが、relievedのようによく日常使われ

るけれども比較的日本の学生が不得意とするような単語が一定数程度存在するようである。これらのかつての日本の英語教育が怠っていた部分は意識的に埋めていくことが我々英語教師の責任だと思われる。ともかく会話の中身は、まず女性が男性に飛行機の出発時間を尋ね、お腹が減っていると訴える。この時点で女性は「何かを食べたい」はずだと推測される。男性は、2時に搭乗（boarding）だと女性に告げる。女性はGood. まだ1時間あるからレストランに行こうと男性を誘うのである。正答はDのShe has time to eat.である。Aの「自分の便に乗り遅れることがなかったから」B「チケットにある情報は正しかった」C「飛行機はan hour earlyであった」、などと解答してしまった者はおそらくboardないしはhead upなどの不慣れな語彙に気を取られ全体的な理解が散漫になったと考えられる。

この問題については、被験者が実際に飛行機に乗って旅行をしたことがあれば、空港では待ち時間が長いという背景知識を使ったり、空港での文脈を想像したり予測したりすることができ、理解は容易になると思われる。しかしそのような経験がない者はスキーマを使うことも文脈を想像することもできないため、内容理解が困難になるだろう。これはBuckによれば第3、第4の要素にあたる。

また、会話の中での女性のI'm getting pretty hungry.を聞いて、女性は何かを食べたいという語用論的な理解によりメッセージを推測できれば、次にくる事柄を予測でき、正答はおのずと導き出されるだろう。TOEICリスニングでは日常及びビジネスでの多面的な場面での会話が多用されるのでBuckの言う特に第3、第4の要素である背景知識やコンテキストの理解が重要となる。

No.8

音声スクリプト

(Woman) I didn't expect to see so many people here this early. The show doesn't start for another hour, and half the

seats are already full.

(Man) Well, the lead is very popular these days. He's been in a number of successful plays.

(Woman) Not only that, but the set design is supposed to be quite unique.

問題・選択肢・解答結果

Where does the conversation probably take place?

- (A) In a lecture hall (2名 10%)
- (B) At a theater. (12名 60%)
- (C) At a stadium. (4名 20%)
- (D) In a waiting room. (2名 10%)

問題の質問は「この会話が行われた場所はどこか」である。二人の会話を聞いてこの会話がどのような場面で行われたか社会通念上の常識から判断させる問題がよく出題される。これは国情とか文化的背景の差を越えて人間社会に共通する場所がよく出てくる。例えば、駅、学校、図書館、病院、などである。このような問題の場合そこでやり取りされる会話に使われる独特の表現やキーワードの理解が特に聞き取るには重要だと思われる。この問題の場合、the show, the lead, plays, the set designなどである。しかしこの問題の正答率は意外に低く、60%に留まった。また誤答であるCのstadiumはplaysをスポーツに結びつけてしまい、Aのthe lecture hallは「ホール」という和製英語的なイメージから来る誤解が原因とも考えられる。これはBuckによれば、第2の要素である言語知識に関わるだろう。この状況におけるキーワードの知識がなければ、理解が妨げられ、会話がどこで行われたかといった状況把握すらできなくなったり誤解につながるだろう。

No.9

音声スクリプト

(Man) Have there been any job advertisements for pharmacists lately?

(Woman) Yes, I just saw one in the

newspaper that included a good salary and benefit package.

(Man) Great! I'll get a copy of today's paper and send in my application right away.

問題・選択肢・解答結果

What is the man looking for?

- (A) A copy machine. (3名 15%)
- (B) A pharmacist. (1名 5%)
- (C) A package (1名 5%)
- (D) A job. (15名 75%)

会話中の男性の質問はHave there been any job advertisement? (何か求人広告あった) である。ただし、for pharmacists (薬剤師の) である。この最後の情報が理解できない単語であったためか必要以上に気を取られ全体の大局的な理解を見失うことが時々起こりうる。会話では女性が「今日の新聞にいいのがあった」と答えるので男性がさっそくa copy of today's paper (今日の新聞) を入手し応募してみよう、というわけである。copy machineという誤答やむずかしい単語と思われるpharmacist自体を探していた、という誤答もあった。問題の質問は「この男性は何を探しているのか」であるから正答はa jobである。

これは、会話全体を聞いて状況を把握できるかを問う問題で、回答者はまず会話から男性がどのような状況におかれているかを判断できなければならない。その点で、この問題はBuckによれば第4の要素、すなわちコンテキストの理解力が問われる。AのA copy machineはa copy of today's paper、BのA pharmacist.やCのA packageは会話の中に登場し、解答と間違え易い語彙ではあるが、このような細かい情報にとらわれることなく会話の大きな流れが捉えられる力が必要である。

No.10

音声スクリプト

(Man) Could you take me to the s

tation after my meeting?

(Woman) Sorry, I'm not going downtown. I have a doctor's appointment near here.

(Man) That's OK, I'll get a taxi.

問題・選択肢・解答結果

Where is the woman going?

- (A) To a medical office. (17名 85%)
- (B) To a taxi stand. (1名 5%)
- (C) Downtown. (1名 5%)
- (D) To the station. (1名 5%)

問題の質問は「女性はどこへ行こうとしているのか」である。会話は男性が「会議が終わったら駅まで車で連れて行ってくれないか」と女性に依頼しているが女性は「ごめん。今日は街には行かない。近くで医者診察を受けることになっている」と言うので、「じゃいいよ。タクシーで行くから。」と答える。正答はAのmedical officeである。この正答率は85%と高かった。Bのtaxi stand Cのdowntown Dのthe stationという部分情報に引っかかったものは少なかった。

この問題は正答率が高かったが、女性と男性が発するそれぞれの情報を瞬時に整理し、混同しないようにする力が必要である。これはBuckによれば、第1の要素のリアルタイムで情報を処理する力に関連するだろう。また女性の会話のdoctor's appointment = 選択肢Aのmedical office、として解釈する力も必要である。これはBuckによれば、第2の要素に関わり、言葉を単独で認識するのではなく、同じ事物を異なる表現で示された情報を関連づける力が必要であることを示している。

V リスニングにおける有効的指導法

本章では第3章、第4章で述べた誤答分析をまとめ、それに基づいて、リスニングの有効的指導法を考察した。以下具体的な指導方法を挙げてみる。

- 1) ボトムアップ・プロセスの訓練のためのシャドーイング及びディクテーション
誤答分析より、Buckによる、第1と第2

の要素に関連して、被験者は①個々の音の聞き取りが弱い、②情報をリアルタイムで処理する余裕がない、③単語を聞き取れても意味理解まで到達していない、ということが確認された。このような音の認識力の低さから派生する内容理解不足は、ボトムアップ・プロセスの部分の弱さに起因すると考えられ、音の認識力を高めて情報処理能力を速くし、意味理解につなげる訓練が必要である。

この効果的な練習方法として、シャドーイングとディクテーションを提案したい。シャドーイングの効果について、玉井¹⁰⁾は、音の復唱技術、注意力、意味理解の精度などが向上するとしており、ボトムアップ・プロセスを鍛えるには単純ではあるがシャドーイングが最適だと思われる。

またさらに細かい部分の聞き取りを強化する訓練としてはディクテーションも効果的である。ディクテーションでは「聞く」だけでなくさらに「書く」という作業が加わり、聞き取れているかどうか記録に残るため、シャドーイングより正確に聞こうとしなければならない。また短縮形や聞き取りにくい否定語などが実際に聞き取れたかどうかの確認もできる。さらにディクテーションを自ら音読したものを録音し、自ら聞いてモデルリーディングとの比較をするのも効果的な学習方法と思われる。

実際のリスニングにおいては、もちろん一字一句すべてを正確に聞き取って再生したり書き出したりする必要はない。しかし、シャドーイングやディクテーションによって、英語の音に耳を慣れさせ、聞き取れない部分の弱点を明確にし、聞き落としを減らす、また聞くための注意力も養える、結果として、大切な部分の聞き漏らしを減らす効果が期待されるだろう。

2) トップダウンの訓練としての、予測力の向上と映像化訓練

誤答分析より、コンテキストの理解力や背景知識が不足していたために内容理解ができ

なかった例が多く見受けられた。このことはBuckによる第3と第4の要素に関わり、会話が展開される状況の経験や知識、専門的な分野の知識などを駆使して理解する、トップダウン・プロセスの重要性を示している。

トップダウン・プロセスに慣れるためには一般的知識を増やすことも大切であるが、予測力の向上や映像化訓練などによってトップダウンを意識して理解をしようとするによりトップダウン・プロセスは養われるはずだ。

言葉は通常コンテキストの中で発せられるため、話がどのように展開するかを予測する力があれば内容理解はより正確で容易になるはずである。この予測力向上のためには、言葉を言葉として理解するだけでなく、言葉から読み取れるメッセージを理解する訓練をすることが大切だ。例えばI'm getting hungry「お腹が空いてきた」という発言を聞いて文字通りに理解するだけでなく、次に発話者がどのようなことを言うかを予測する。またI wonder if～の文が発せられたら話者は何かを依頼するのだろうと瞬時に判断する。また聞く際に話者のやりとりの目的は何か、話者同士の関係はどうか、などを常に予測しながら積極的に聞くことによってインプットされる情報量は増えるものと思われる。

また会話などが展開されている場面を想像し、頭の中で映像化する訓練もトップダウン・プロセスの力を高めるだろう。当然のことではあるがリスニングテストでは会話などが展開される視覚的な状況設定は与えず、現実自分が経験する実際の生活の場面でのリスニングとはかけ離れている。その欠けている場面、例えば話者の表情やジェスチャーなどを思い浮かべながら聞くように生徒や学生を訓練すれば内容理解の力は上がるはずだ。

3) トップダウン及びボトムアップ理解のバランスを意識した指導

第2章において、リスニング力はトップダウン・プロセスとボトムアップ・プロセスの相互作用であると述べたように、この誤答分析によって、リスニングには両プロセスが大

10) 玉井 健 「シャドーイングは万能薬なのか」『英語教育』2005年3月号 28～30

きな役割を果たすことが確認された。ボトムアップ・プロセスにおける音の認識や個々の言葉の知識を持ってフレーズや文などの小さな単位で意味を捉える力は、正確な聞き取りに欠かせない。しかしながら理解は言語的な知識の積み上げただけによって可能となるのではなく、聞き手は背景知識を使って大局的に理解を図ろうとする、すなわちトップダウン・プロセスが作用するのである。リスニング力を向上させるには両プロセスをバランスよく伸ばす必要があり、英語教員はこの点に着目して、日々の授業活動において上述したような活動を取り入れていくべきである。そのため5)でも触れるが可能な限り多くのタイプのテキストを使って様々なタイプの情報を英語学習者に提供する必要がある。またそのテキストをただ漫然と聞かせるだけでなく、音読や速読などをさせた後に2つのタイプのQ&A、すなわちボトムアップを意識したものとトップダウンを意識したものをバランスよく繰り返して多用することが重要だろう。

4) 語彙力の強化

誤答分析において、基本的な語彙と話題に関するキーワードの知識不足により、理解が妨げられたり、聞きなれない語に引きずられたりすることが確認された。これはBuckによる第2の要素である言語知識の力に関わるが、未知語はその背景知識があったとしても聞いて一瞬で理解できるものではない。未知語がたくさんあるということはリスニングに限らず他のスキルにおいてもかなりのデメリットであり、その意味で語彙力は語学力全般において不可欠だ。今回のリスニングの調査でも分かったが、リスニング問題で扱う題材は医学などの専門性の高い分野や、旅行、オフィス、一般生活など、多岐にわたるため、普段から様々な英語に触れて、幅広い語彙力をつける必要がある。したがって指導においては意識的に様々な分野の英文を読ませたり聞かせたりして常に学習者の語彙力を増強させる努力をする、また学校の定番のテキストのみならず英字新聞や洋書の教材を随時入れる

などの工夫も必要だろう。

さらに誤答分析において、同じ事物を異なる表現で言い換えている情報がセンター試験及びTOEICで頻出しており、この言い換え能力がセンター試験及びTOEICの得点と大きく関係していることが分かった。故に英語教員は言い換え能力を向上させ、同一の事物や概念を異なる英語表現で言い換えることを、日々の英語授業活動において多用することが望まれる。

5) 様々な形態のテキストを聞く

高校生の実験調査結果において、アナウンスや講義形式の問題の正答率の低さが目立った。これはShohamy and Inbarの研究でも示唆されているように、テキスト形式は内容理解に大きく関わるようだ。この類のテキストは、情報の繰り返しや間などがなく、対話文に比べて文も複雑である。また少しでも聞き逃せば問題に答えられなくなることも多い。以上のような理由から、聞き取りは困難で、当然このようなアナウンス形式の情報に対して学習者は苦手意識を持っていると思われる。

このようなテキストに大しての学習者の苦手意識をなくすためには、普段からニュース、ラジオ、アナウンス、講義など様々な形態のテキストを聞かせて慣れさせる努力を惜しまないことが必要だろう。またTOEICの問題では日常生活及びビジネスの多面的な場面が登場することが多く、そのためにも様々な場面を想定したリスニング指導を教員は実践しなければならないだろう。指導の仕方としてはただ無意識に聞かせるのではなく、上述したようなシャドーイングなどを混ぜて、意識的に聞かせる訓練をすること、また情報をピックアップし保持するために、メモを取る練習をさせるのも効果的であると思われる。

VI まとめ

以上本論では、高校生及び大学生のリスニング試験の実験調査結果に基づいてその誤答を分析しその結果をもとに、特に技術的な面からリスニング能力養成のための有効な指導を考えたが、一口にリスニング能力と言って

もその力は単にテクニカルな部分を考えても解決しないはずだ。なぜなら英語リスニングは英語という一言語を通してある情報を得るわけだが、言語の背後には文化や歴史があり、それらの理解も必要だろうし、リスニングによる情報理解も人間社会全体に関わる一般知識や常識さらに人間そのものの理解に支えられて初めて可能となると考えられるからである。

さらに序論でも触れたが、本論において、英語教育における、特に高大の連携の重要性を再認識した。日本の英語教育改革は確かに進みつつあり高大の連携の必要性は叫ばれている。しかしまた十分とは言えない。可能ならば高大にとどまらず、小、中、高、大の各教育現場がさらに大規模かつ組織的な学力調査を行い、その結果をもとに各教育現場間の連携に基づいた、継続的なカリキュラムを作成する必要がある。今回の小論はささやかではあるが今後も高大連携を意識した調査研究を続行していきたい。

参考文献

- Buck, G. 2001. *Assessing Listening*. Cambridge University Press.
- Long, R. L. 1990. "What you don't know can't help you." *Studies in Second Language Acquisition*, 12, pp.65-80.
- O'Malley, J., Chamot, A. and Kupper, L. 1989. Listening comprehension strategies in second language acquisition. *Applied Linguistics*, 10, pp. 418-437.
- Shohamy, E. and Inbar, O. 1991. "Validation of listening comprehension tests: the effect of text and questions type." *Language Testing*, 8, 1, pp.23-40.
- The Chauncey Group International TOEIC 公式ガイド&問題集 財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会2002
- 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>

- 武井照江『英語リスニング論』河源社 2002.
- 玉井 健 「シャドーイングは万能薬なのか」『英語教育』2005年3月号 28～30
- 2006 センター対策 英語リスニング ベネッセコーポレーション
- The Chauncey Group International TOEIC 公式ガイド&問題集 財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会 2002